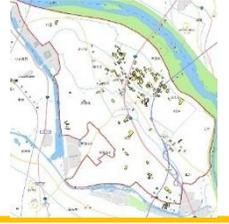


五霞町農業再生協議会（茨城県五霞町）

組織の概要

- 基盤整備事業（S43～S53）により、町全体で約800ha汎用化水田を整備。
- 町の耕作面積の9割以上が水田で、米を中心とした兼業農家が大半。
- 高齢化によりリタイヤする農家は増加傾向であり、担い手への農地集積が進行。
- 作業効率の向上やコスト削減を図りながら、市場ニーズに合った高品質な麦の安定生産に取り組んでいる。



生産概要

- 【取組主体】(株)五霞グレインファーム、(株)アグテック飯島
- 【作付面積】水稲：30ha、新規需要米：25ha、
小麦：51ha、大麦：16ha（R4年）
- 所得増加と経営の安定化を図るため、麦の作付割合を拡大。
（R3 51ha → R4 77ha）



取組のポイント

<需要に応じた生産を徹底>

- 製粉会社等の実需者と意見交換を実施し、麦のタンパク含量を保証する契約を結びより高品質な麦を生産。

<地域の農地の積極的な受け入れ>

- 農業法人の設立を契機に、町のリタイヤ農家等から農地を引き受けている。

<営農技術の導入による単収・品質の向上>

- 先進的営農技術及び土壌診断を基にした適正施肥。
- 小麦・大麦の交互作付の実施による、作業分散や病害抑制。
- ドローン活用した薬剤散布によって、生産の高度化・省力化。



取組成果

<麦生産の単収向上>

- 稲わら等の有機物のすきこみによる地力低下の防止や排水性改善により単収向上。
（単収：R3 266kg/10a → 297kg/10a）

<担い手への農地集積>

- (株)五霞グレインファーム、(株)アグテック飯島は、町のリタイヤ農家等から農地を引き受け、麦の作付面積を拡大。
（作付面積：R3 51ha → R4 77ha）

- R4 現在、小規模な農地が分散する地域で団地化を進めている。加えて、来年度、飼料用米から麦への大規模転換に取組む法人が当該事業を活用予定であり、分散する農地に隣接する部分も多いため、地域全体への効果の波及が期待される。

